地域医療支援病院 富山市民病院

れんけいと支援

No.210
2021.10月号

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,
Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1／Tel: 076（422）1112㈹ http://www.tch.toyama.toyama.jp／発行日 2021年10月

当科における関節リウマチ診療について

腎臓内科　**大田　聡**

関節リウマチ（RA）は我が国においては約70万人程度の患者さんが罹患され、最も頻度の高い膠原病の一つです。画家のルノアールもRAに罹患し、晩年は手指関節の高度の変形のために、絵筆を口にくわえながら創作活動を行ったことは有名なお話ですが、近年RAの治療法はメソトレキセートや生物学的製剤、JAK阻害剤の登場などにより目覚ましい進歩をとげ、このような関節の変形を認める患者さんはかなり少なくなったと思います。

RAの治療目標はもちろん関節破壊の進行を抑制し、患者さんが健康な方と変わらない日常生活を送れるようにすることです。一度関節破壊が進行してしまうと、生涯にわたり不都合な日常生活を送らなければならなくなる可能性があります。関節破壊は発症から２年以内の早期に最も早く進行するといわれており、早期診断が重要です。RAの関節炎の診断は関節の局所の診察のみならず、関節エコー、MRIなどの画像検査が感度の点で優れており、当科でも造影MRIで関節の滑膜炎、骨びらん、骨髄浮腫等の有無を検討し、RAの早期診断を行っています。また、特に早期のRAでは、関節炎をきたす他の膠原病や類縁疾患、感染症などの多くの疾患の鑑別が必要となってきます。当院では膠原病診療に精通する５名の腎臓内科医（うち１名は日本リウマチ学会専門医）が様々な検査を駆使してRAの鑑別診断を行っています。

RAは関節症状が主体ではありますが、時に肺病変や腎病変など他臓器の病変を伴い、全身管理の必要な疾患です。また、RA患者さんは近年ますます高齢化されており、RA以外のCKD（慢性腎臓病）をはじめとした多臓器の疾患を合併されている方も多くなってきました。高齢RAの治療に当たっては薬剤の投与量にも配慮が必要であり、また、免疫抑制作用のある薬剤による感染症などの副作用にも留意が必要です。腎臓内科医は、普段から腎機能障害時の薬剤投与量調整に慣れており、また他の膠原病、腎炎・ネフローゼ治療でもＲＡと共通する免疫抑制剤を多く使用し、副作用対策を行っています。ＲＡ治療は関節破壊抑制の観点から、発症からできるだけ早く（できれば６か月以内）に寛解や低疾患活動性を達成するように疾患活動性をコントロールする必要がありますが、当科ではJCR2020ガイドラインにそって、必要に応じ生物学的製剤やJAK阻害剤の投与も考慮しながらRA診療を行っています。

かかりつけの先生方におかれましては、関節症状があり、ＲＡと他の膠原病との鑑別に悩まれる症例などございましたら、当科までご紹介をお願いします。

11月分 研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会（ハイブリッド開催）

日 時：11月9日（火）　19：00～20：15　場所：当院3階　講堂

1）症例検討

（1）「直腸脱とその治療選択」

外科　名倉　慎人

（2）「月経随伴性気胸に対する自己血液製剤を用いた外科治療」

呼吸器外科　土岐　善紀

2）ミニレクチャー

「当院におけるCOVID-19診療の実際」

呼吸器内科　野村　　智

2021年9月末時点で、国内のCOVID-19感染者数は約170万人、死亡者数は17,000人を超えている。一方、富山県では同期間で感染者総数4,793人、死亡者総数50人と報告されている。第5波後、全国的に減少傾向ではあるが、まだまだ終息の兆しは見えない。

2020年3月30日に富山県で最初の症例が確認されて以降、当院は感染症指定医療機関として積極的にCOVID-19診療にあたってきた。未知のウイルスに対し様々な情報が不足しており、治療薬も試行錯誤の状況であったが、厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症診療の手引き」を中心に治療を行なってきた。現在は、軽症で適応となる症例には中和抗体薬を積極的に使用し、肺炎合併例ではレムデシビル投与、呼吸不全合併時にはデキサメタゾンを遅滞なく追加する方針で、重症化を回避できていると感じている。

今回、COVID-19患者の入院診療を行なっている立場から、実際の症例の経過等を紹介させていただき、情報を共有し今後の診療に役立てることができればと考えている。

予告　12月は「地域連携の会」です。症例検討2例、ミニレクチャー2題を準備しております。先生方のご参加をお待ちしています。

日時：12月14日（火）　19：00～20：15　ハイブリッド開催

場所：当院3階　講堂

内容：①症例検討　2例　（担当）腎臓内科、整形外科

②ミニレクチャー　2題（担当）脳神経内科、内分泌代謝内科

地域連携症例検討会に関しては、今後もWEBを利用したハイブリッド方式で開催していくことを計画しています。つきましてはZOOM会議のご案内に関して参加される先生がたの利便性に鑑みURLならびにQRコード等をお送りするため、下記のメールアドレスまで送信してくださるようお願いいたします。

ttm2168@tch.toyama.toyama.jp（地域医療連携室）

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

作：病院ボランティア 篠崎 佳子

入院支援センター
～入院から退院後まで切れ目のない支援のために～

入院支援センター看護師　笹山　知香子

今年4月に入院支援センターが新設されました。

入院支援センターは、入院が決まった患者さんに対して入院前から退院後の生活まで見据えた支援を行うことで、住み慣れた生活の場に良い状態でより早く退院していただくことを目標にしています。

私たち看護師は、薬剤師、栄養士と共に様々な視点から患者さんの入院前の状況をアセスメントし、入院治療や検査、手術を安心して受けていただけるような支援をしています。また、生活状況を聞き取りながら、退院後に予測される生活の変化をイメージできるように関わっており、時には介護保険の申請を勧めたり、現在の生活や退院後の生活が困難なケースには、社会福祉士などに繋ぎ安心して入院ができるよう院内連携をおこなったりしています。

入院支援センターは開設して間もない部署のため、色々な事を試行錯誤しながらスタッフ一丸となって良い体制づくりをしている最中です。入院が決まった患者さんとその家族に寄り添い、ゆっくりとお話しを聞きながら丁寧に説明を行い、おひとりおひとりに合った対応ができるよう心掛けています。

今後も、入院から退院後まで切れ目のない支援の一端を担えるよう努力してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

尚、富山市民病院マガジン「きよら」101号には、入院支援センターが特集されていますのでご覧いただければ幸いです。

入院支援センター　相談室

医師不在のお知らせ

※外来担当日の休診のみ掲載

11月

科名	医師名	不在日
内科	水野	5日
精神科	長谷川雄	19日
形成外科	田畑	10日
耳鼻いんこう科・頭頸部外科	辻	29日
皮膚科	野村佳	10日、29日
	大村	2日
歯科口腔外科	寺島	8日、9日、22日
	朝倉	15日、22日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

活動が制限され刺激が少なくなったここ1年半。1年経ったのか、2年経ったのか・・時間の感覚がおかしくなっていることに気付くことがあります。面会が制限された入院生活では、ご家族とのふれあいという大切な刺激が足りない日々が続いています。心の健康を保つには必要な刺激です。関係各機関のみなさまが工夫を凝らし面会やイベントを行っておられることをニュースや広報誌で見聞きすることがあります。利用者やご家族と向き合い、出来ることを模索される姿勢に感銘を受けます。みなさまの取り組みから学ばせていただき血の通ったサービスを提供できるよう考えていきたいと思います。

精神デイケア科　中村　里佳

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076（422）1114／FAX 076（422）1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp
ホームページ http://www.tch.toyama.toyama.jp/　がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp